

第32回宇宙安全保障部会 議事要旨

1. 日時

令和元年5月17日（金） 10:00～11:30

2. 場所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

青木部会長、片岡部会長代理、折木委員、久保委員、鈴木委員、土屋委員、中須賀委員、名和委員

(2) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、行松審議官、山口参事官、須藤参事官、高倉参事官、森参事官、滝澤参事官

(3) 関係省庁等

内閣官房 国家安全保障局 伊藤内閣審議官
外務省 総合外交政策局 宇宙・サイバー政策室 山口室長
防衛省 防衛政策局 戦略企画課 坪郷企画官

4. 議事要旨（○：質問・意見等 ●：回答）

(1) 静止光学衛星の研究状況について

資料1に基づく宇宙航空研究開発機構（JAXA）からの説明の後、次のような議論が行われた。

○静止光学衛星の有用性は昔から言われているにも関わらず、諸外国がほとんど静止光学衛星を製作していないのはなぜか。

●技術的な問題が大きい。特に、大きな鏡を作る際、1枚鏡を用いる、分割鏡を用いる等の方法があるが、この鏡にゆがみを出さないようにするために高度な技術を要する。

○静止軌道は混んでいるが、準静止軌道においても使用することができるか。

●可能である。

(2) 宇宙・サイバーの安全保障とマルチドメイン作戦について

資料2に基づく土屋委員からの説明の後、次のような議論が行われた。

○衛星は、安全保障上有益なリソースであり、サイバー攻撃によるかく乱に対してどの程度の防護が必要か？

●ハッキング等による不正利用への対策は、厳しくやらないといけない認識である。また、データの暗号化、地上局における防護等も重要と認識している。

●衛星の地上局に対する防護等についても考えていかなければならない。

○マルチドメインがクローズアップされる中、宇宙とサイバーをどのように同化していくべきか。

- 宇宙、サイバーに関する技術を持った人材が必要である。このため、人材育成が重要である。

(3) 宇宙基本計画工程表における今後の取組の方向性について

資料3に基づく事務局からの説明の後、次のような議論が行われた。

- 「工程表2-2 海洋状況把握(MDA)」について、自動船舶識別装置(AIS)に関する技術調査に関し、AISを搭載していない船舶を如何にして発見するかも重要なポイントである。また、最近では、違法電波を発見する技術もあると認識されることから、その様な観点も重要である。
- 「工程表2-4 宇宙システム全体の機能保証強化」について、地上局のストレス・テストとはどのようなものを考えているか。
- かねてから、TTXについて何か考えていかなければならないという認識から、地上局の重要性を踏まえ、疑似環境におけるリスクを認識するなどのやり方があるのではないかなど、その実施に向けた検討を行っていく。
- 「工程表5-1 宇宙安全保障の確保に向けたその他の取組」について、人材育成に関しては、中長期的及び短期的観点を考慮し、より具体的な検討を行っていくことが必要である。

以上